

■ 2006年12月31日(日曜日)

# 県政フラッシュ 2006年

マニフェスト「福井元気宣言」の4つのビジョン、  
「元気な産業」「元気な社会」「元気な県土」「元気な県政」に沿って、平成18年の県政をご紹介します。

## 元気な産業

### コシヒカリ育成50周年

福井で誕生した日本を代表するおいしいお米「コシヒカリ」が、今年、育成50周年を迎えました。これを機会に「コシヒカリのふるさと・福井」を全国にアピールし、イメージアップを図るため、県ではさまざまな記念事業を展開。記念米の販売やインターネットギャラリーの開設、都市圏の子どもたちを対象とした栽培体験などを行いました。



東京・六本木ヒルズの屋上庭園で行われた  
田植えイベント

### 成功させよう！全国植樹祭

天皇后両陛下のご臨席のもと行われる「第60回全国植樹祭」が、平成21年春、福井県の一乗谷朝倉氏遺跡をメイン会場に開催されることが決定しました。みんなで力を合わせて、すばらしい大会を実現させましょう。

## 産業に活力を

### ● 「 Bizitt “ふくい” 」の推進

「 Bizitt “ふくい” 」の推進

県観光連盟の観光プロデューサー等が各地域と協力するなどして、県内各地で新たな魅力づくりの取り組みが次々とスタート。エコ・グリーンツーリズムや農家民宿の開設等を支援し、都市圏からの誘客・定住促進にも取り組んでいます。また、台湾や香港などからの誘客も積極的に展開しています。

### ● すずむ企業誘致・販路開拓

トップセールスによる企業誘致活動を進めた結果、昨年を上回る35社の県内進出が決定(12月末現在)。トヨタ自動車?に本県企業の製品や技術を提案する商談会を開催するなど、企業の販路開拓についても積極的な支援を行っています。

### ● みんなの「働きたい」を応援

「ふくいジョブカフェ」での若者の就職支援などにより、本県の完全失業率は、全国で最も低くなっています(9月末現在)。さらに、女性や団塊の世代、いわゆるニートと呼ばれる若者たちの就職を支援する新たな取組みも展開しています。



渡辺トヨタ社長にトップセールスする西川知事ら

## 元気な社会

### 一歩先行く少子化対策

きめ細やかな保育サービスの充実、地域や企業における子育て応援など、全国に先駆けた特色ある取組みをさらに推進。4月からは、第3子以降の妊婦検診費や3歳に達するまでの保育料等を無料化する「ふくい3人っ子応援プロジェクト」も新たにスタートさせ、子どもを3人以上持ってほしいというメッセージを強力にアピールしています。



子どもの一時預かり等を行うNPO法人も増加

#### 唯一 出生率が上昇！

本県の合計特殊出生率は、全国平均が5年連続で低下する中、17年に全都道府県の中で唯一上昇し、全国第2位となりました。子育て先進県として、本県の施策が全国のみならず海外のメディアからも注目を集めています。

### もっと「健康長寿」

#### ● 医療の充実

「メタボリック・シンドローム(内臓脂肪症候群)」予防のため腹囲チェックの普及を進めるなど、日頃の健康診断の充実を推進。アンチ・エイジング(抗加齢)医学の考え方を取り入れ、簡単にできる健康長寿度チェック法も開発し、普及を進めています。県立病院に併設される「陽子線がん治療施設」については、平成21年度の治療開始を目指して実施設計に着手しました。

#### ● 広がる食育

全国に先駆けて導入した栄養教諭制度等により、学校・地域・家庭の各方面から積極的な食育を展開。新たに「魚がさばける福井人養成講座」をスタートするなど福井独自の食育を進め、「食育推進全国大会」(6月)や「全国学校給食研究協議大会」(11月)で広くPRしました。



魚をさばく体験を通して若者の食生活改善を目指す

#### ● 健康長寿食品の開発

民間企業と共同で健康長寿食品を開発し、ラッキョウや福井梅を用いた2製品の販売が5月から始まりました。今後もさらなる商品開発を進めていきます。

## ● 自転車で健康づくり

環境にやさしく健康にも優れた自転車の利用を、通勤・通学やレジャーなど生活のさまざまな場面で促進しています。10月には三方五湖湖畔でサイクリングイベントを開催し、県内外から多くの人々が参加しました。

## 女性の元気を応援！

### ●女性のチャレンジを後押し

女性のチャレンジを後押し

日本一の働き者といわれる福井の女性。女性の起業やキャリアアップを応援する講座等を実施するとともに、9月からは再就職を希望する女性のための職業訓練も開始し、働く意欲を応援しています。



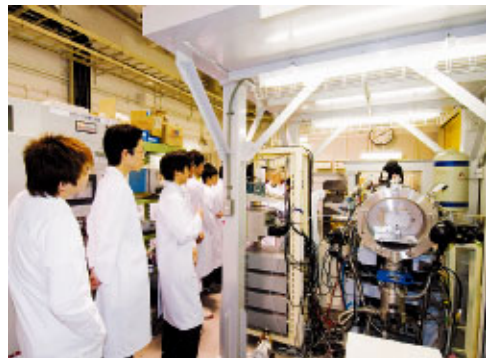
### ●男女がともに活躍できる社会づくり

10月に福井、岐阜、三重、滋賀でつくる「日本まんなか共和国」の男女共同参画フォーラムが本県で開催され、4県の団体やグループが活発に意見を交換。今後も女性のパワーを社会に活かす取組みを進めていきます。

## 元気な県土

### 進む エネルギー研究開発 拠点化計画

地域と原子力の自立的な連携を目指す「エネルギー研究開発拠点化計画」を推進。民間企業への技術移転を進めるため、原子力技術者養成の実務研修を実施しているほか、9月には県内や関西・中京圏の大学生を対象に「敦賀『原子力』夏の大学」を開催するなど、将来を担う人材の育成にも取り組んでいます。



若狭湾エネルギー研究センターの施設を見学する学生たち

### “四通八達(しつうはったつ)” 福井へ

#### ●新快速乗り入れが実現

10月、関西からの新快速電車が敦賀まで乗り入れるようになり、関西の各都市と福井県が直接結ばれました。これを地域の活性につなげるため、魅力ある地域づくりが各地で進められています。

#### ●本格スタート！北陸新幹線

福井駅部の高架橋工事が10月から本格的に始まりました。1日も早い福井までの開業と敦賀までの整備促進を目指し、今後も国や関係機関への積極的な働きかけを行っていきます。



新快速一番電車の到着式

#### ●舞若自動車道の早期開通に向けて

舞鶴若狭自動車道の小浜西—小浜間は平成23年度、残る敦賀までは平成26年度完成を目指す方針が示され、全線開通に向け、整備が着々と進んでいます。

## 元気な県政

### 創造！発信！ふくいブランド

#### ●アニバーサリーを活用

福井の偉人や出来事の節目の年(アニバーサリー)を活用し、福井の魅力为全国へPRしています。今年は岡倉天心の「茶の本」出版100周年にあたることから、2月に初版本を取得。記念座談会や茶会、特別展示等の開催、小中学生向け「茶の本」解説本の配布等を通して、天心の業績と思想を県内外に紹介しました。来年即位1500周年を迎える継体大王についても、関係市町や民間団体と連携して記念事業の準備を進めています。

#### ●広がる「考福学」

歴史や文化、自然などといった福井の魅力を県民自らが再認識し、「かたりべ」となって県内外に発信していく県民運動「考福学」がスタート。すでにいくつかの学校や民間団体などで活動が始まっています。皆さんもぜひ、「考福学」運動にご参加ください。



ふくいブランド大使のパックンによる「茶の本」特別授業

#### 恐竜ブランドをPR！

今年は“福井の恐竜”が全国区で大活躍。子供たちに人気のカードゲームに採用されたほか、恐竜博物館では新しい恐竜グッズの販売が始まりました。来年3月には恐竜切手の復刻も決定。今後も恐竜のブランド化を進め、全国にPRしていきます。

### 新しい地方分権を目指して

合併が一段落したことを機に「知事・市町長政策懇談会」を初めて開催し、県と市町の役割分担や効果的な連携・協力について意見を交換。

西川知事が委員長を務める全国知事会・憲法問題特別委員会では、地方の立場からの意見を集約し、政党との意見交換会などを行いました。さらに「地方分権改革推進法」についても緊急提言を行うなど、真の地方分権実現に向け、積極的に取り組んでいます。



初の「知事・市町長政策懇談会」

### 芸術・文化・歴史をもっと身近に

#### ●「ちびっ子コンサート」はじまる

より多くの子どもたちに本物の芸術文化に親んでもらおうと、県立音楽堂で無料鑑賞シートの設置や体験コンサートを実施。6月の開始以降、たくさんのお子どもたちが音楽体験を楽しんでいます。

### ● 歴史的遺産を憩いの場に

結城秀康の築城から400年を迎えた福井城址。この歴史的遺産を県民に親しまれる憩いの場とするため、散策路の整備や石垣のライトアップなどを行いました。今後、御廊下橋の復元なども予定しています。また、福井の伝統的な民家の良さを次の世代に継承していくため、新たな条例を制定。伝統的民家の保存・活用を推進しています。



ちびっ子コンサートで思わず歌い出す子どもたち

## 安全・安心な県民生活に向けて

### ● 子どもの安全・安心

地域ぐるみで子どもの見守り活動を行う「子ども安心3万人作戦」を展開。約4万5千人の県民が参加しています。さらに学校への防犯ビデオ設置やインターネットを利用した安全情報の提供など、治安対策の充実を図っています。



地域のボランティアが子どもたちの登下校を見守る

### ● 自然災害への対策を強化

昨冬の豪雪に迅速に対応するとともに、今年7月の豪雨被害の復旧を進め、対策の充実を図りました。平成16年の福井豪雨で破堤した足羽川についても、対策工事や足羽川ダム建設など、再度災害の防止を進めています。

### ● 迅速な危機対応

北朝鮮による弾道ミサイルの発射(7月)や地下核実験(10月)では、県民の安全を脅かす恐れが生じました。県では迅速な初動体制で対応するとともに、国に対して速やかな情報提供などを緊急要請しました。